

平成 30 年 二級建築士学科試験 講評

昨日、二級建築士学科試験を受験された皆様、本当にお疲れ様でした。

全体的な難易度としては、午前中の計画は標準～やや難、法規はやや難しく、午後の構造は標準、施工は標準～やや難しかったと言えます。

4科目全体で見ると、おおむね「標準的」であったと言えるでしょう。

■計画■

- ・全体的に標準的～やや難しい問題でした。特に環境工学分野の設問については、新規問題が多く難しかったと思われますが、その他は比較的得点しやすかったのではないのでしょうか。
- ・[No. 1、2]建築史の問題は、過去問からの出題で易しい問題でした。
- ・[No. 5]室内の表面結露防止策、[No. 6]熱貫流率、[No. 7]終日日影の範囲などの環境工学の問題は、難しく感じたと思われます。とくに[No. 6]は難易度が高く、限られた時間の中では捨て問題とも言えます。ただし、[No. 5]などは、図に惑わされず、かつ、表面結露防止策の本質（①壁体の表面温度を下げない、②室内の湿った空気を取り除く）さえ理解できていれば解けたのではないのでしょうか。
- ・[No.16]所要床面積については、新規問題の保育所の「ほふく室」の床面積についてが解答枝となったため、難問でした。

■法規■

- ・全体的にやや難しい問題でした。建築基準法 20 問、関係法令 5 問は例年通りでした。法規は問題文の長文化傾向が続いており、「時間との勝負」というのは例年と変わりありません。突出した難問は見受けられませんでした。得点が伸び悩んだ傾向があります。解ける問題から優先して確実に得点をしていくことが求められました。
- ・[No. 1]面積、高さ、階数に関する問題で、昨年に続き出題されました。屋上のペントハウス（階段室）の扱いがカギでした。
- ・[No. 5]平均天井高さ、[No. 6]木造の軸組み長さなどの計算問題は、過去にも出題があるので、確実に得点したい問題です。
- ・[No.16]容積率の算定の基礎となる延べ面積の計算問題は、共同住宅の共用の廊下・階段部分の面積を各階で差し引くことに気づいたかどうかポイントとなりました。
- ・[No.25]関係法令では、近年の法改正のトピックである「建築物省エネ法」について1枝出題され、解答枝となりました。

■構造■

- ・全体的に標準的な問題でした。出題の構成は例年とほぼ変わりませんでした。文章題には新規の枝も散りばめられていましたが、惑わされずに過去の出題内容をしっかりと理解できていれば合格点は取れたのではないのでしょうか。
- ・力学6問は比較的、標準的な難易度でした。[No.4]静定ラーメンの曲げモーメント図を選択する問題は、見た事がなく戸惑ったかもしれませんが、基本どおり反力を求め、応力を各支点、節点で考えれば解答できたのではないのでしょうか。
- ・[No.12]木造軸組みの壁量計算、[No.13]壁式R Cの壁量計算、[No.15]鉄筋コンクリート構造（せん断補強筋比）などの図の問題は、類似問題が過去にも出題されているので、確実に得点したい問題です。

■施工■

- ・全体的に標準的～やや難しい問題でした。出題の構成は例年とほぼ変わりませんでした。平成24年以降の出題のなかった、測量の問題[No.23]があったことが特徴です。総体的にやや難しく感じた要因は、新規の問題が多く見受けられたことによりですが、過去問の正確な知識があれば消去法で合格点は取れたのではないのでしょうか。
- ・[No.7]杭工事、[No.9]コンクリート工事、[No.11]鉄筋工事、[No.22]改修工事などは新規問題が多く含まれており、特に[No.9]はコンクリートの供試体についての難問でした。
- ・[No.23]高低測量についての近年では目新しい問題ですが、A点からの標高をB、C、Dと順を追っていけば単純な計算で解けました。図に惑わされず、落ち着いて考えられたかどうかのカギでした。
- ・その他、木工事、鉄骨工事、防水工事、左官・タイル工事、塗装工事、建具・ガラス・内装工事などは、解答枝が過去問からの出題で目立ったため、得点しやすかったと思われます。

平成30年7月2日

皆様の好結果を祈念しています

TAC建築士講座